

(海外・国内) 出張報告書 (学生用)

2014 年 7 月 16 日提出

氏名	池田 哲平
所属	解剖学教室
学年	博士課程 1 年
出張先	熊本大学薬学部 (熊本市中央区)
出張期間	2014 年 6 月 21 日-22 日
目的	第 2 回全国博士課程リーディングプログラム学生会議

活動内容 (2,000 字程度、活動内容が判る様な写真や図表を加えて下さい)

九州大学・熊本大学・長崎大学博士課程教育リーディングプログラム履修生の主催により、平成 26 年 6 月 21 日(土)、22 日(日)の 2 日間、熊本大学薬学部宮本記念館(熊本市中央区)にて開催された、The 2nd Students Meeting of Leading Graduate Schools に参加しました。本会議は、主題として『博士の Employability と博士教育と社会との接続』を、副題として『イノベーション from 九州』を掲げ、様々な観点からの博士課程雇用問題に関する議論を通して、プログラム履修生間の交流を活性化することを目的としました。

まず、『イノベーション from 九州』では、全国の学生に地方の取り組みをアピールすることで地方の活性化に繋がると同時に、その取り組みからイノベティブな思考を学び、停滞する日本に新たな風を吹き込む力を学生に与えることを目的としました。このセッションでは、九州において革新的な活動をされている方二名に、初日のランチョンセミナーと 2 日目の午前に講演をしていただきました。

1 人目は、ゼンカイミート株式会社代表取締役の萩原新一氏で、数年前から取り組んでいる「ハラルミート」についてご紹介されました。イスラム圏の観光客や留学生が増加傾向にある日本において、その方たち信仰上、食する事が出来ないものが多く困っているという現状があります。萩原氏はいち早くその問題の解決に取り組み始めました。萩原氏は大手の食肉業者が手を出しにくいニッチな市場を開拓し、ハラルミートの需要は現在も拡大傾向にあります。

2 人目は、佐賀県武雄市の樋渡啓祐市長に講演いただきました。樋渡市長は 2006 年に当選して以降、市民病院の民間移譲やイノシン肉などの特産品化、twitter や facebook を活用した情報発信に取り組み、また、武雄市図書館を「TSUTAYA」を運営する会社に運営委託し、年間 100 万人にも及ぶ集客となりました。2014 年 4 月には小学校と塾を一体化させた「官民一体型小学校」の開校を発表し、話題を集めています。講演では、このような自身のこれまでの取り組みを紹介し、イノベーションの必要性を話されました。

主題である『博士の **Employability** と博士教育と社会との接続』については、大きく 2 つのセッションが設けられました。1 つ目はワールドカフェ、2 つ目は国内・外および官・民から識者を招いて講演いただきました。

1 つ目のワールドカフェでは、三つのテーマに沿って 5-6 人のグループでディスカッションを行い、アイデアや意見を交換しました。テーマとしては、「(博士として)私たちが働くにあたって、求めるものはなにか?」「社会が博士に求めるものは、どんなことだと思うか? 今の私たちに足りないこと、必要なことは?」「私たちそれぞれがやりたいこと、なりたいもの(夢)それと実際のキャップをどう埋めるか? そのために、私たち、社会、企業または(リーディングプログラム)大学院がすべきこと、してほしいことは何か?」が掲げられ、1 つのテーブルで 15-20 分のディスカッションを行った後、各自自由に次の空いているテーブルを探して移動し、同様にディスカッションを行うというものでした。各テーブルには移動しない一人のホストがつき、各テーマについて 3 回のテーブルディスカッションを行い、合計 9 回、毎回全く違うメンバーでのディスカッションを行うことで、より多くの人と意見交換を行いました。以上を初日の午後に行い、2 日目の午後からは、初日のディスカッションで出た意見を 10-12 人で構成されるグループごとにホストを中心としてまとめ、最終的にプレゼンを行いました。プレゼンの方法はグループにより様々で、模造紙を使って発表するグループもあれば、パワーポイントで発表するグループ、またショートドラマのような劇を行ったグループもありました。

2 つ目の講演は、以下の 3 名の方に行っていただきました。1 人目は米国特許商標局特許審査官の Dr. Devang Thakor 氏で、バイオテクノロジーや化学製品に関する特許の審査を行うだけでなく、自身の会社を設立し、研究のデザインや学術雑誌投稿と研究費獲得に関するコンサルタントを行っています。講演では自身の研究背景や Ph.D の社会的役割についてアメリカと日本の比較を交えながら紹介されました。2 人目は大阪大学総務企画部の喜久里要氏で、前職の文部科学省時代にこのリーディングプログラムの立ち上げに関わり、日本の高等教育改革を推進されています。講演では、博士人材の就職状況や社会的ニーズのデータを交えながら、リーディングプログラムを設立した経緯などを紹介されました。3 人目はシンクタンク・ソフィアバンク代表の藤沢久美氏で、全国の企業経営者にインタビューと現場取材を行い、メディアを通じて発信しています。講演では、会社設立に至った経緯や、博士人材に期待することを経営者目線で話されました。

この講演は当初、学生も含めたパネルディスカッションの予定だったものが、時間の都合上、講演だけに終わりました。

初日の夜には参加学生による懇親会が行われ、全国のリーディング大学院の学生と交流を深めました。



ワールドカフェの様子



ワールドカフェの発表



北大参加メンバー

指導教員確認欄	所属・職・氏名：解剖学教室 教授 昆 泰寛 印
---------	-------------------------------

※1 電子媒体を e-mail で国際連携推進室・リーディング大学院担当に提出するとともに、指導教員が押印した原本を国際連携推進室・リーディング大学院担当に提出して下さい。

提出先：国際連携推進室・リーディング大学院担当

内線：9545 e-mail: leading@vetmed.hokudai.ac.jp